

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月24日(火)

▼高幡不動の川澄祐勝御貴主より「銀漢」へ激励の基金戴く。何とも感激である。客の高部さんより玄界灘の鯛一本到来。クリスマスイブの居酒屋は駄目、二十二時前閉める。奈良、吉村征子さんより今年も手作りのひろうす到来。これは絶品!

25日(水)

▼大西酔馬さんの勉強会の仲間だったという「信長の棺」などの作家・加藤廣氏、玉乃光酒蔵社長長の宇治田宏氏ほか六人の忘年会。加藤氏、千利休の死因に確信を得たので来年執筆と。楽しみ。

26日(木)

▼発行所、新年号送付作業。2月号の原稿二本ほど残して渡す。店、本年最終日。「天為」編集部、発行所句会あと、ジャカルタ赴任中の西村我尼吾、日原傳さんなど七名。

27日(金)

▼朝の新幹線にて奈良。十三時、東大寺転害門に集合二十数名。般若寺、佐保路散策。不退寺、法華寺など。雨まじりの寒風の中。夕方、近鉄奈良駅近くの「一条」にて句会と宴会。「雲の峰」の朝妻力主宰、渡辺政子さん駆けつけてくれる。席題で三句、二句と。

28日(土)

▼七時半、ホテルフジタを出てJRにて三輪。九時、狹井神社にてお祓いのあと、三輪山登拝へ。子規の家系を継ぐ正岡明さん参加。「ホトトギス」の敦子、美紀さん、「雲の峰」の藤田壽穂さんも。三時間ほどの登拝あと、松原神社、ホケノ山古墳。箸墓にて清水佳壽美、笠原祐子さんの関西勢と待ち合わせ。末永理恵子さんは初日から。箸墓を見ているうちにたちまちに霰が。霽るやいよ濃くなる大和説)奈良に戻り、「蔵」にて句

29日(日)

会と宴会。茨木和生先生よりまた鮎鮎の極上品をいただき皆で楽しむ。五句、三句、二句。途中、中島凌雲・優夫妻、大阪より駆けつける。「蔵」のご夫婦お元気。▼八時半発、元興寺に寄り、春日大社に参拝。二十一人。そこで何と! 角川の石井隆司氏(元俳句研究編集長)が女性と二人連れでいるのに遭遇……。娘さんであった。東大寺二月堂から奈良を俯瞰して「一条」へ。昼食あと五句出し句会。以上をもつて「煤逃吟行会」おひらき。京都へ出て、大谷祖廟(妻の分骨先)。その奥の妻の実家の墓参り。野村證券京都支店時代の友人W女と酒盛り。松葉蟹、ぐじ、なまこ、おこぜ唐揚げ、よこわ平目の刺身、かき雑炊……。二十時過ぎの新幹線に乗る。品川まで熟睡。

30日(月)

▼「銀漢賞」の選評。彗星集など。二月号残りの原稿を書き上げる。酒休む。

31日(火)

▼宮澤が迎えに来てくれて、仏壇と共に成城へ。引つ越しの一步として今日が日が良いというので、一番大事なものを運ぶ日。明るいうちから納めの酒宴。からすみ、鯛の昆布締め、ひろうす、伊勢「若柳」の牛肉焼く。紅白歌合戦見る。宮澤は浅草寺から声がかかり、堂内の撮影に。杏一家はインフルエンザで足止め。成城泊。

1月1日(水)

▼ドンペリで新年の乾杯。伊勢「せき谷」のおせち料理三段重。充実。愛媛の睨み鯛、数の子、ひろうす、からすみ、雑煮。ひと眠りして喜多見の水川神社へ初詣。夕方、愛媛のてつさ、ふぐ鍋、雑炊など。成城泊。

2日(木)

▼白味噌雑煮。酒少々。桃子一家は甲府の両親に年賀まで。明日からグアム島と。帰宅して年賀状の返信で夕方まで。

5日(日)

▼買い出し。店の掃除と仕込みで夕方まで。

6日(月)

▼庭師・河野さん朝から入り、庭の木をばさばさ切る。ウッドデッキにする為。いよいよ引越しを急ぎ立てられる雰囲気。仕事始め。「かさ、ぎ俳句勉強会」十四人。郷里の先輩・今井さん、蝗、ざざ虫、蜂の子、さなぎの佃煮を持って来店。私はさなぎは駄目。

7日(火)

▼昼間、皆川文弘さん、いわきのスパリゾートハワイアンズの酒井さんと。当方、谷岡、武田で「いわき本部吟行会」についての打ち合わせ。「週刊金曜日」スタッフの他店は閑散。風邪気味。

8日(水)

▼午後、「梶の葉句会」選句に。夜、「ささらぎ句会」あと七名来店。遅い時間に仏留学中の堀切克洋君一時帰国で来て、清人、文子さんなどと角の中華店。

9日(木)

▼「堀切克洋君一時帰国句会」何と、三十四人が集まる。「一・時・国」の題。これに「十六夜句会」あとの八人が合流。賑やか! 山形の庄山子さんから、金瓢筆の金箔入りの酒到来。開封。

11日(土)

▼十時、運営委員会。十三時より「銀漢本部句会」五十九人出席。清記用紙四十二枚廻り、選評の時間ほとんど取れず。十七時「旨い屋」にて懇親会。何とか風邪から回復。

12日(日)

▼平成俳壇午前中に仕上げ。二日遅れながら発送。午後、杏一家来て、家の片付け。杏さん物凄いい勢いで片付け、といつてもおおかた廃棄処分。自分では愛着があつてとても捨てられないものも容赦なく……ああ。夜、久我山の焼き肉店へ。杏一家泊まる。

13日(月)

▼朝から片付けスタート。私は「銀漢」二月号の校正。夕方、武田編集長が取りに来てくれる。家の中は大変な状態。桃子一家がグアムから帰国と。

14日(火)

▼「火の会」(大和 詩乃、敬雄、謙一、文世、うさぎ、

19日(日)

▼成城。妻の八年目の忌日(二十一日だが)に合わせた偲ぶ会。姉、兄夫婦、義妹一家にも来てもらい大人十人、子供六人。愛媛のてつさ、ふぐ鍋、からすみ。兄持参のくんせい類など。

20日(月)

▼大寒。店。「演劇人句会」八人。「春燈」久米さん四人。毎日新聞・鈴木琢磨記者来て細川元首相の話。滋賀の酒の話。鮎鮎の話など。

21日(火)

▼妻の忌日。八月末の伊那での「信州伊那月俳句大会」の講師を石寒太先生に依頼・応諾受け、北村監督に連絡。「新年俳句大会」用色紙一、短冊八枚など用意。当日の年頭の辞の文案。事業部「新年俳句大会」の諸道具発送など。鳥谷操さんの手配見事。「銀漢秋句会」の田中敬子さんが専門の藍染めで銀漢の旗を作って、寄贈して下さる。数百の星を散りばめ、銀漢の文字は銀箔。有り難し!

22日(水)

▼直、政三、まほさん「新年俳句大会」の写真班打ち合わせ。けい吾、みどりさん久々。「春耕新年大会」打ち合わせのあとと。朝妻力さんより電話。奈良で凌雲さんと会った縁で、大阪・国立文楽劇場の文楽へ四十八人で行った帰りと。茨木和生先生に連絡とり、次回一緒に行く。日本の文化を守ろうと。

23日(木)

▼「湯島句会」メンバーであった脇本浩子さん、小学館文庫「イタリア郷土料理」美味紀行」を刊行とて来店。贈呈していただく。閑散。松山、坪井、金井、有史、「天為」三人……。二十二時に閉める。